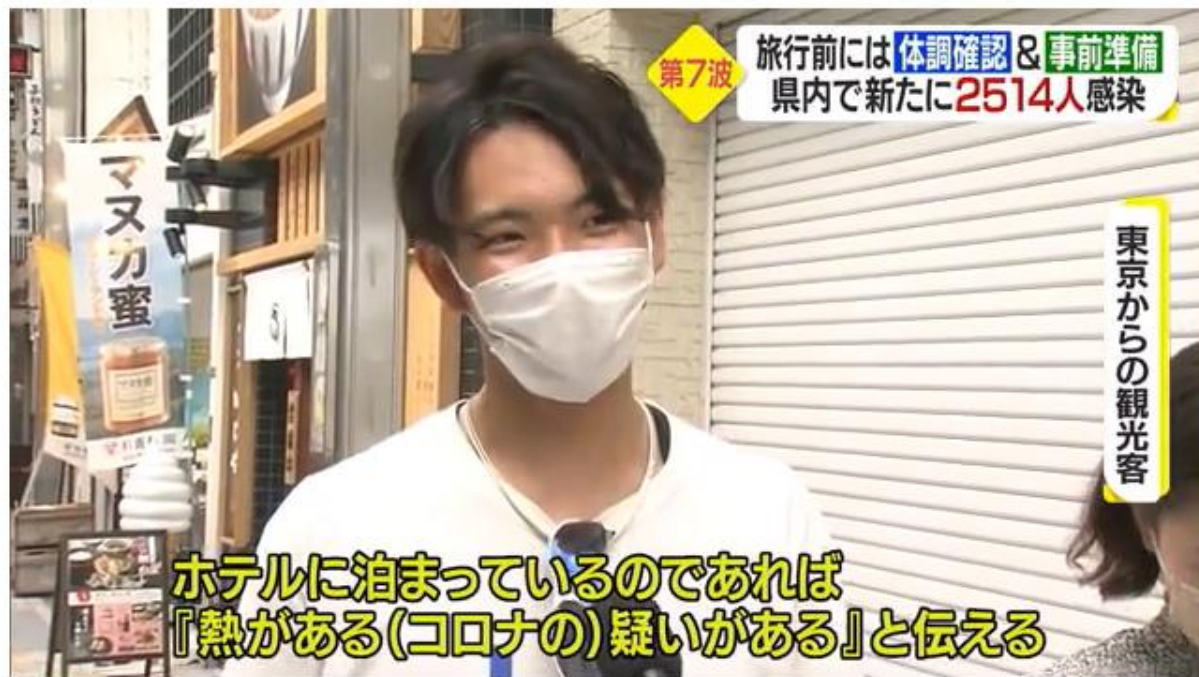


新型コロナ 過去2番目の2514人感染 2人死亡 帰省・旅行の感染対策は…専門家に聞く【愛媛】

2022年08月10日 テレビ愛媛



テレビ愛媛

<https://news.yahoo.co.jp/articles/bc67285afe4a0acaa7c332004fdcdac648a91f35>

下線をクリックしてください。

愛媛県は10日、過去2番目に多い2514人の感染と2人の死亡を確認したと発表しました。

こうした中、翌日11日は「山の日」の祝日、本格的に始まるお盆休みを前に専門家に旅先で気をつけたいコロナの注意点を聞きました。

旅先でコロナを疑う症状が出た場合、あなたならどうしますか。

東京からの観光客：

「もしホテルに泊まっているのであれば、ちょっと熱がある（コロナの）疑いがあるかもしれないと伝える」

「（コロナに）かかっちゃったのは自分の責任だと思うから、それだったら延泊なりして、自分の負担を増やしてでもホテルにとどまったりとか」

今やコロナはいつどこで感染・発症するか全く予想が付きません。

愛媛県によりますと、旅先でコロナを疑う症状が出た場合、まずは現地の相談センターや保健所に電話をしてほしいということです。

その後、検査で陽性となった場合は医師による診断が行われ「重症」であれば現地の医療機関や宿泊療養施設に入ることになります。

この場合は原則無料です。

ただ、「軽症」だった場合は泊まっているホテルや旅館で待機を求められるケースがあり、この時の延泊料は自己負担になるので注意が必要です。

この道後のホテルは8月の宿泊予約はコロナ禍前の2019年の9割にまで回復。

お盆期間はさらに多くの宿泊客が訪れるため、感染者が出た場合の対応を想定しています。
道後プリンスホテル・河内広志会長：

「我が社の場合には1部屋だけ『隔離ルーム』を作ってるんです。毎日1部屋空けておりまして、ご家族の中で（感染の）心配のある方はそちらにご移動いただいて待機していただく」

一時的に療養できる「隔離ルーム」を用意しているほか、唾液を採取するタイプの「抗原検査キット」を有料で販売し、ホテル内で感染の有無を確認できる体制を取っているということです。

一方、医療の専門家は旅行や帰省の大前提として「出発前の体調確認」と「事前の準備」が必要と話します。

愛媛県立衛生環境研究所・四宮博人所長：

「オミクロン株の特徴は上気道に症状が強く出るので、喉がすごく痛いとか、鼻水が出る、鼻が詰まる、いわゆる風邪の症状があった時には旅行や移動は控えた方がいいと思います」
旅行前後の注意点として「健康状態の確認」と「ワクチンの3回目接種」、旅先に「解熱剤や風邪薬」などの常備薬を持参すること、高齢の家族などに久々に再会する場合は「事前に無料の検査」を受けてほしいとしています。

愛媛県立衛生環境研究所・四宮博人所長：

「現在、日本の状況は過去最多の感染状況の新型コロナの流行中ですので、愛媛県から他県に旅行に行った時に、感染のリスクがより高くなるのか、同程度なのか、そういう情報を知っておいてほしいということです」

また、旅先の感染状況を把握することも大切と訴えています。

愛媛県が10日に発表した新たな新型コロナウイルスの感染者は、過去2番目に多い2514人です。

居住地別では松山の1136人をはじめ、東予の4市で3桁の感染確認となったほか、松山の周辺地域でも感染拡大が目立っています。

また、新たに新型コロナの重症例ではなかった80代の入院患者と、自宅療養中だった70代の2人が死亡しました。